



定期巡回・随時対応サービスの概要

利用条件・単位数

サービス及び事業所の特色

株式会社zuttie

定期巡回ステーションずっといえ

介護保険について

基本理念

介護保険の基本理念は「**自立支援**」である。

すなわち、高齢者が自らの意志に基づき、**自らの有する能力を最大限活かして**、自立した質の高い生活を送ることが出来るように支援することである。

量から質への転換

業界内では、長らくサービスの過剰提供が行われており、**基本理念と実態との乖離**や、過剰提供による**介護保険給付費の増大**などが問題視されている。



自立支援の実現と、介護給付費の抑制を目的とし、**過剰提供を抑止するための制度改定**などが日々行われている。

適切なサービス提供量

24時間自立した状態



介護が必要な状態



(---) 部分に対し、**過不足なく支援**されていることが正常な状態。
過剰提供により、**利用者からの短期的な満足感**を得ることはできるが、
一方で利用者の**できることを奪う（減らす）**ことになり、
自宅で最期までと願う利用者においては、**根幹の欲求を否定する行為**になる。

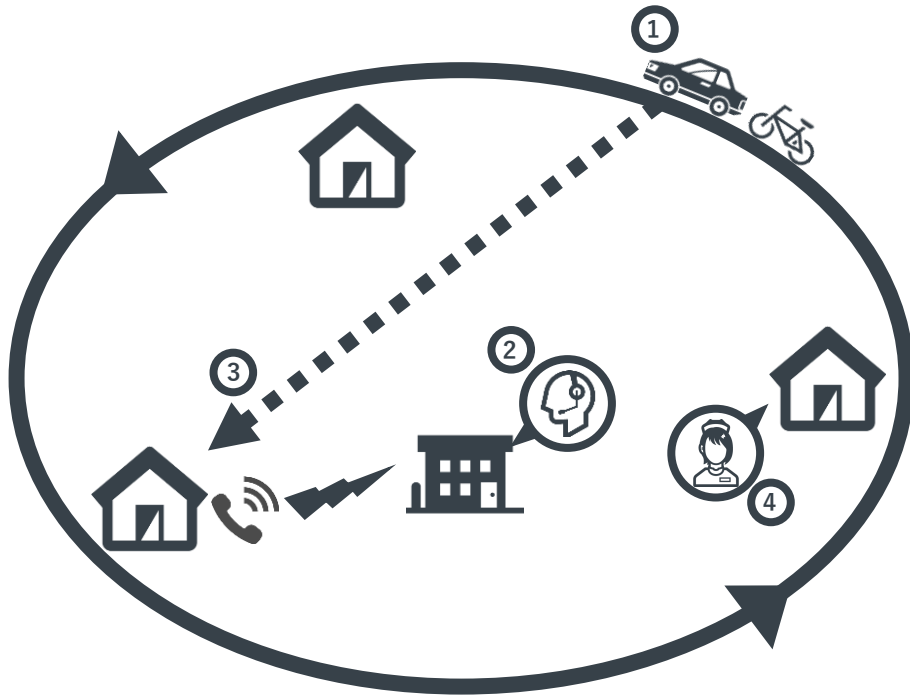
在宅介護の現状

リソース	メリット	デメリット
家族介護	家族間の交流が増える 費用負担が抑えられる	家族の疲弊・介護離職 就労者は技術の習得が困難
訪問系サービス	住み慣れた自宅での生活が続けられる 選択肢が多く、自由度が高い	中重度者の対応や、 状況に応じた臨機応変な対応が困難
施設系サービス	切れ目ないサービスにより、 在宅では得難い安心感が得られる	各施設の定員 / 家族の費用負担 「ずっと家で」というニーズからの乖離

「ずっと家で暮らしたい」という想いを抱く方が数多くいる一方で、
各地域における**在宅介護の基盤は、まだまだ脆弱。**

定期巡回サービスの概要

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 (H24年創設)



01 定期巡回サービス

アセスメントの結果に応じて、利用者宅を定期的に訪問するサービス。

02 随時対応サービス

オペレーターが利用者からの緊急コールを受け、緊急対応の要否を判断するサービス。

03 随時訪問サービス

訪問が必要と判断された緊急コールに対し、昼夜問わず即時訪問するサービス。

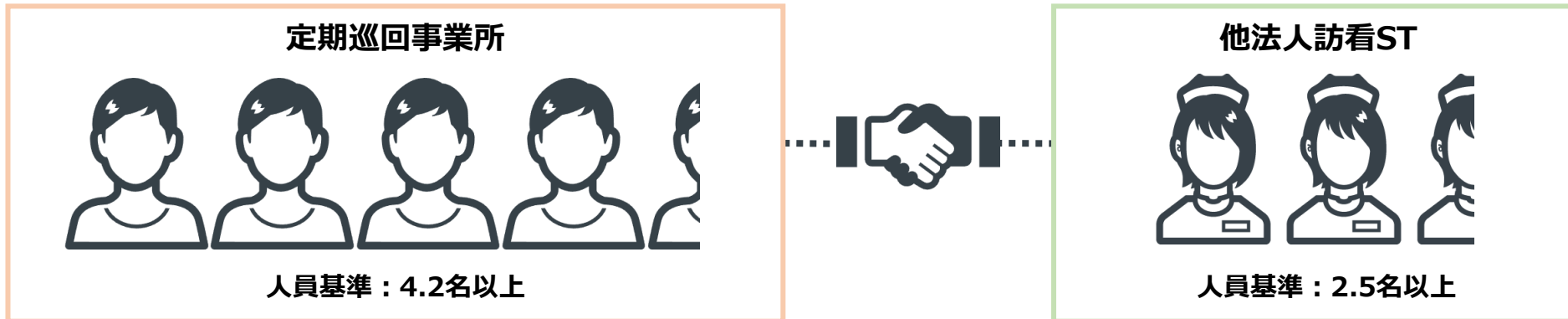
04 訪問看護サービス

利用者の状態に応じ、定期的に看護師が訪問し、看護領域の支援を行うサービス。

介護と看護を一体的に提供し、24時間365日体制で、絶え間なく地域を支える。

事業所形態

看護連携型



地域の訪問看護STと連携契約を結び、看護サービスを外部に委託する事業形態。

※1 連携先の訪問看護STは、「緊急時訪問看護加算」の要件を満たしていること。
※2 「1.事業所間の連携契約」「2.訪看STの変更届」「3.重説/料金表の変更」が必要。

看護一体型



2.5名以上の看護職を確保し、看護サービスも自社で行う事業形態。

チームケア

業務一部委託

サービスの一部を委託



利用条件

介護認定

要介護1～5（要支援は対象外）

住所地

明石市内在住の方（住所地特例対応可）

併用不可

訪問介護、訪問看護、夜間対応型 etc

単位数

看護連携型

要介護度	支給限度額	包括報酬	1日分	デイ減算	残単位	訪問看護
1	16,765	5,446	179	62	11,319	2,961
2	19,705	9,720	320	111	9,985	2,961
3	27,048	16,140	531	184	10,908	2,961
4	30,938	20,417	672	233	10,521	2,961
5	36,217	24,692	812	281	11,525	3,761

看護一体型

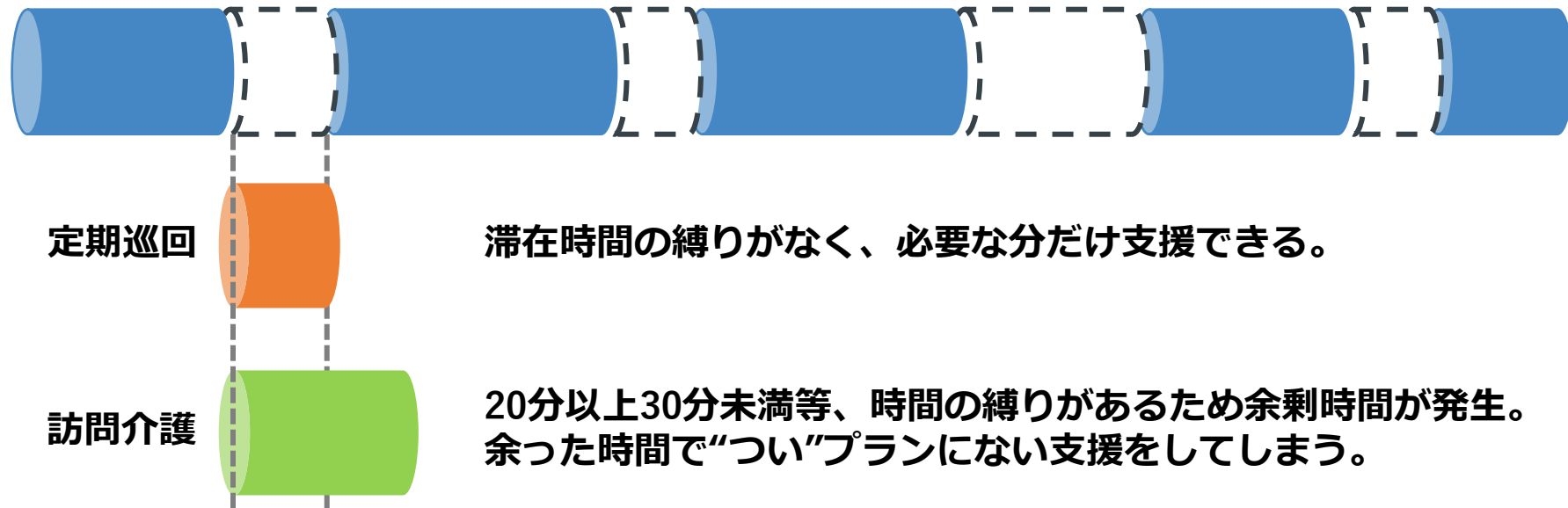
要介護度	支給限度額	包括報酬	1日分	デイ減算	残単位
1	16,765	7,946	261	91	8,819
2	19,705	12,413	408	141	7,292
3	27,048	18,948	623	216	8,100
4	30,938	23,358	768	266	7,580
5	36,217	28,298	931	322	7,919

サービス特性の比較

	訪問介護	定期巡回
滞在時間	ケアプラン上で定められた時間 原則、20分以上の滞在	制限なし 状況に応じて変更可能
再訪問	再訪問時には、 最低2時間の間隔が必要	制限なし 定期訪問直後でも再訪可能
サービス区分	身体・生活の区分があり、 それぞれの提供量が固定される	明確な区分・縛りはなく、 状況に応じてウエイトを調整
報酬体系	1訪問に対し報酬が設定されるため、 サービス量に応じて報酬増加	要介護度に応じた包括報酬

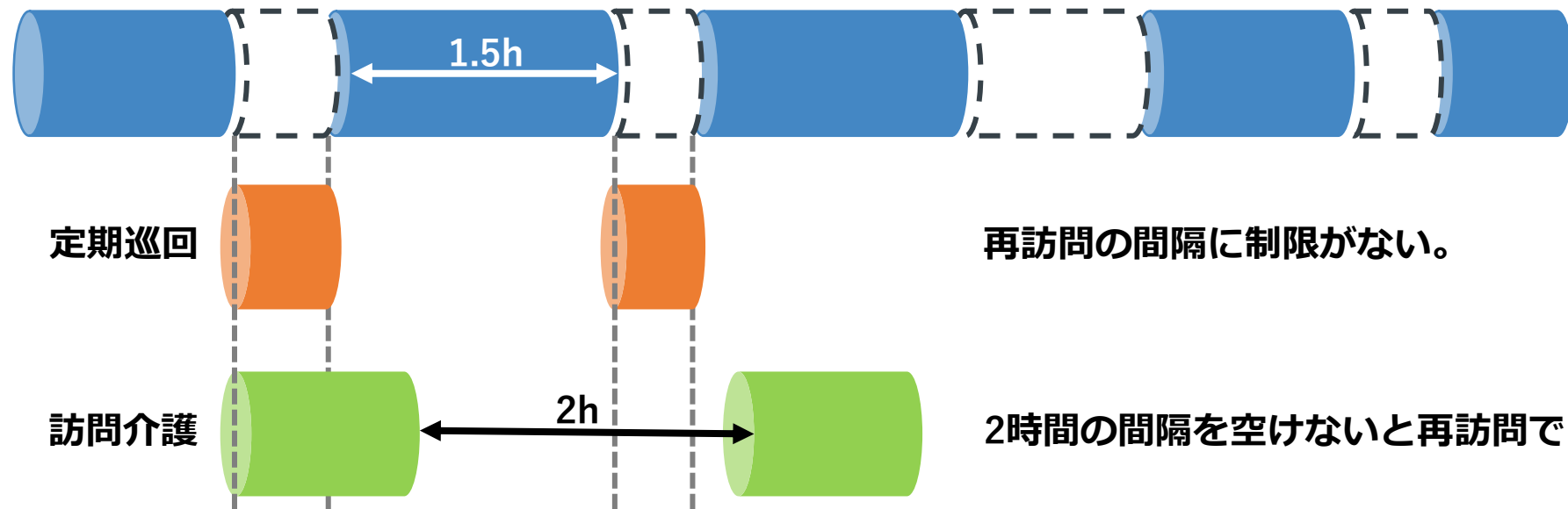
自立支援における定期巡回の優位性

過不足ないサービス提供



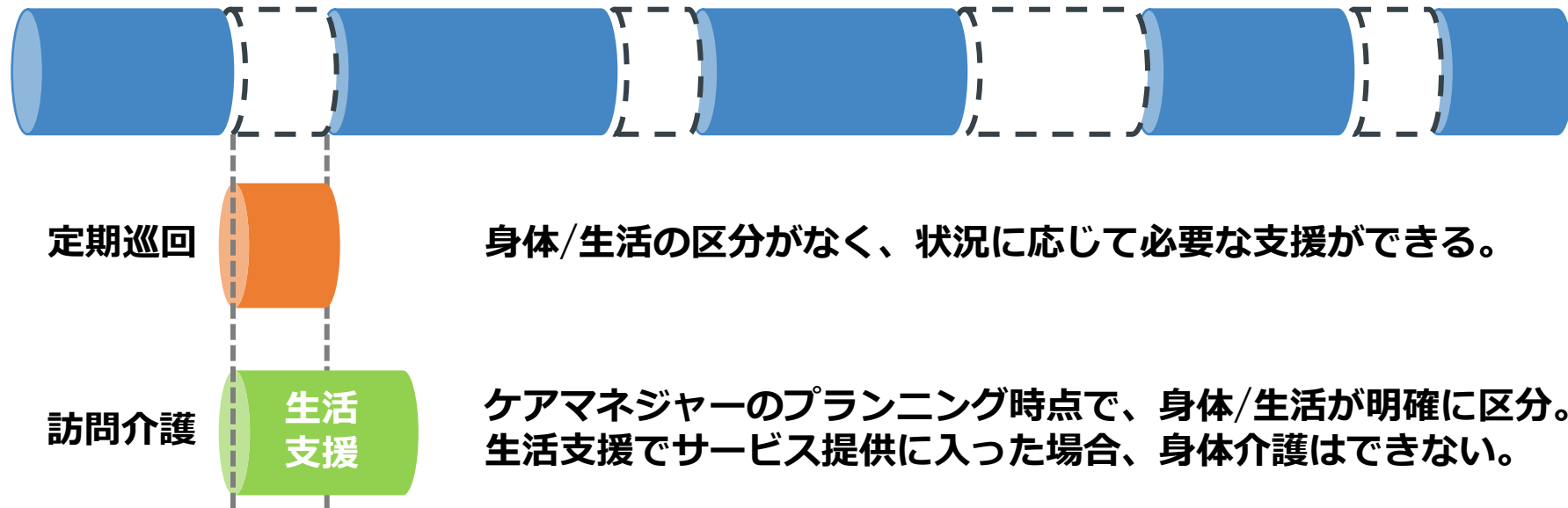
自立支援における定期巡回の優位性

再訪問の柔軟性



自立支援における定期巡回の優位性

サービス区分



自立支援における定期巡回の優位性

迅速な計画修正



定期巡回 事業者の判断で、**即座に計画を修正・実行**することができる。


訪問介護 サービス量の変化 = 利用者負担の変化。
担当者会議 → 家族の承認 → ケアプラン/計画書の修正 等を経て変更となる。



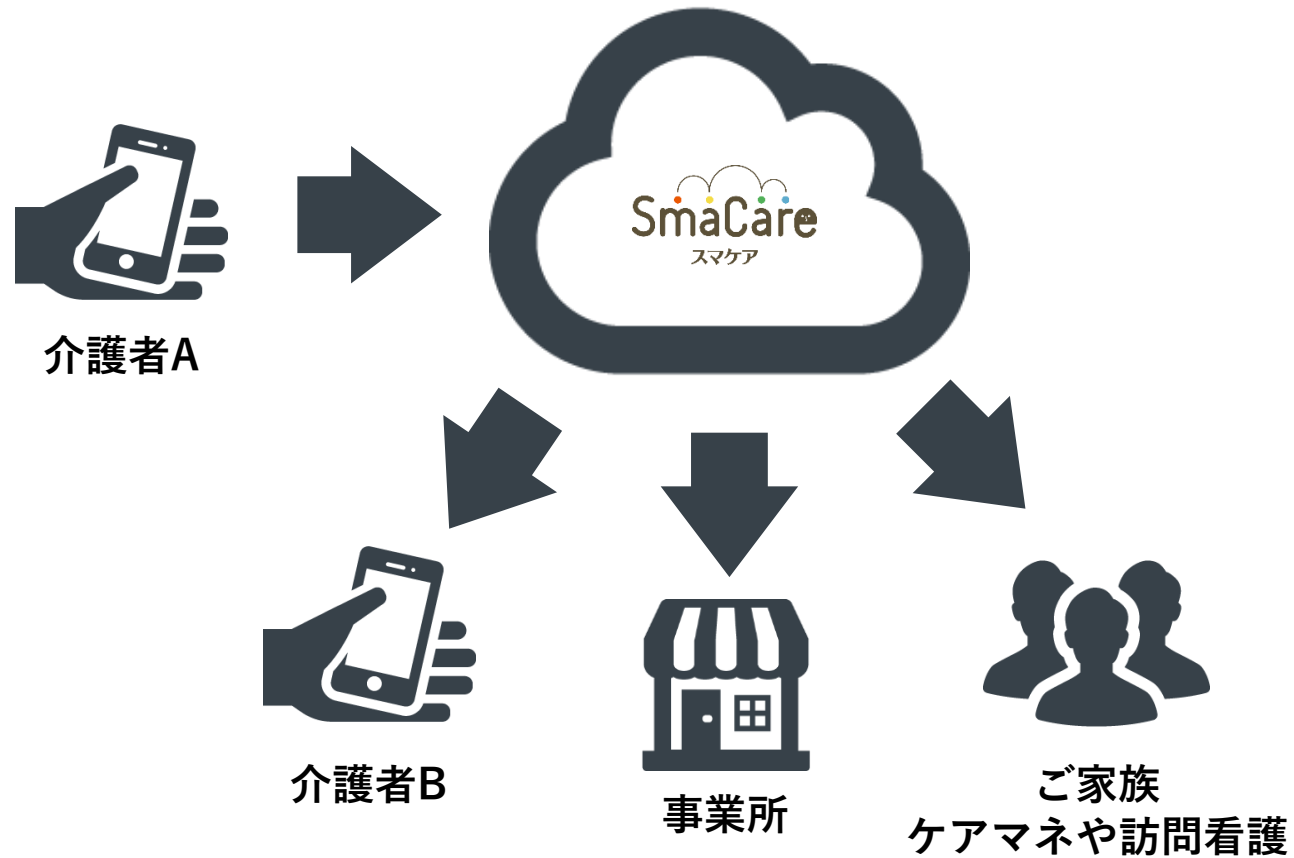
SmaCareはクラウドサービスなので、
URLを入力すれば、何処でも誰でもアクセス可能。



The screenshot shows the SmaCARE login interface. It features a light blue background with the title 'SmaCARE ログイン' at the top. Below the title are two input fields: 'ログインID:' and 'パスワード:'. A 'ログイン' button is positioned below the password field. At the bottom right of the form area, there is a green button labeled 'スマケアリモートサポート'. At the bottom of the page, there is a copyright notice: 'SmaCARE Ver:5.4.0 COPYRIGHT 2017 © LOGIC Co., Ltd. ALL RIGHTS RESERVED.' and a security badge for 'SSLとは?' with logos for GlobalSign and GMO.

ログイン画面から先に進むには、
個別のIDとパスワードが必要。

ケアマネジャー・ご家族・訪問看護など、
関係者ごとのIDとパスワードを作成し、SmaCareのURLと共に配布。



アプリでとった記録はクラウドサーバーに保存され、
関係各所にリアルタイムで共有されます。

定期巡回・随時対応サービスの利用事例

CASE1 : がん末期の方への支援

CASE2 : 夫婦共に要介護5での利用

CASE3 : 糖尿病利用者への支援

株式会社zuttie

定期巡回ステーションずっといえ

|CASE1 : がん末期の方への支援

基本情報

O氏 84歳 女性

既往歴：大腸がん（末期）

生活状況：夫と二人暮らし。

ADL：要介護5／人工肛門（パウチ使用）※自身での破棄可能／自宅内での生活はほぼ自立

サービス内容：訪問看護（医療保険）／福祉用具／定期巡回サービス

R7年7月より利用開始。

ご本人・ご家族の意向

本人：夫に迷惑がかからない程度に、家で過ごしたい。最終的には、病院かな？と
考えている。

家族：できる限り、支えていこうと思うが、できないことは手伝ってもらいながら
自宅で一緒に過ごしたい。

| サービス利用状況（Before）

01 医療的側面

内容：パウチ内の便破棄と合わせて、シャワー浴
頻度：週2回（月・木）

02 介護的側面

内容：バイタルチェック／排泄（便もれ確認・破棄）／買い物（必要時）
頻度：週5回（月・木以外）／1日1回＋緊急時

サービス利用状況（After）

01 医療的側面

内容：パウチ内の便破棄と合わせて、シャワー浴
頻度：毎日（1日1回＋必要時）

02 介護的側面

内容：バイタルチェック／排泄介助／買い物（必要時）
頻度：毎日（1日1回＋必要時）

今後の課題

7月5日に利用開始し、10月21日入院され、10月24日病院にてご逝去される。余命3か月と診断され、いつ急変するか分からない状況の中、ギリギリまでご自宅で過ごされた。

10月初旬から徐々に状態低下してきたが、本人様の状態に合わせてケア内容を変えながら対応することができた。

※主に排泄介助

| CASE2 : 夫婦でのサービス利用

基本情報

M氏夫婦

夫：89歳 要介護5

R5年7月より利用開始。※利用開始時は要介護1

前立腺癌診断あり。積極的治療はせずに、様子観察。

ADL：利用開始時、ほぼ自立。3か月に1回程度排泄処理介助が必要。

R7年3月～要介護5に区分変更。日内変動あるが、食事介助が必要な時もある。

妻：88歳 要介護5

R5年7月より利用開始。

多発性脳梗塞後遺症にて、右半身麻痺。

ADL：排泄（トイレ介助、おむつ交換）

共通：食事準備、片付け等

他の定期巡回事業所からの移行。

ご本人様、家族の意向・家族支援

本人様・長男様：施設入所は考えていない。自宅で過ごしてほしい。

**長男：日中は就労中である。介護は難しい。
買い物支援あり。**

CASE2 – 支援経過

サービス利用状況

サービス時間	夫	妻
7:00～8:30	排泄・更衣・移動・口腔ケア・食事・服薬	排泄（トイレ）・更衣・移動・口腔ケア・食事・服薬
11:30～12:30	排泄・移動・食事・服薬	排泄（トイレ）・移動・食事・服薬
15:00～16:00	排泄・水分補給	排泄（トイレ）・水分補給
17:00～17:30	食事・服薬	食事
19:00～20:00	排泄・移動・口腔ケア・更衣	服薬・排泄・移動・口腔ケア・更衣
その他	デイ（送り出し・迎え入れ） ゴミ出し	デイ（送り出し・迎え入れ） ゴミ出し

| 今後の課題

ご夫婦ともに、インフルエンザやコロナなど罹患しやすく、夫はそのたびにADLが低下している。ただ、ADLの低下はあるが常に体調の変化がわかる為、ケア内容や訪問回数を変更して対応し、夫婦共に要介護5の状態であるが、自宅での生活を続けられている。

今後医療的な支援が多くなった時に、再度在宅か、他の選択肢か？決めることになると思う。

|CASE3 : 糖尿病利用者

基本情報

G氏 66歳 女性 生活保護受給中

既往歴：2型糖尿病、統合失調症

ADL：要介護5 移動移乗一部介助／食事準備・食事介助・片付け／排泄オムツ介助（バルーン）

インスリン注射補助／入浴：デイ週1回・全身清拭週2回（定期巡回・訪看）

R6年3月ごろのホスピタル退院後、在宅復帰と同時に定期巡回利用開始。1日3回インスリン自己注射あり。目盛確認、自己接種時の支えなどを行う。利用当初は転倒の危険はあるものご自身でPトイレ使用、家の中の移動は行っていた。R7年状態悪化し、ほぼ寝たきり状態で食事、排泄など全介助実施。R7年11月末住居取り壊しに伴い、施設入所予定。

CASE3 – 支援経過

サービス利用状況

サービス時間	ケア内容
6:00～6:30	BS測定、インスリンの見守りや声掛け、内服介助、尿破棄 低血糖時のブドウ糖摂取やインスリン食後打ちの対応 食事準備介助片付け
8:30～8:45	デイサービス送り出し（週1回）
12:30～13:00	BS測定、インスリンの見守りや声掛け、内服介助 低血糖時のブドウ糖摂取やインスリン食後打ちの対応 食事準備介助片付け
16:30～16:50	デイサービス迎え入れ（週1回）
18:30～19:00	BS測定、インスリンの見守りや声掛け、 低血糖時のブドウ糖摂取やインスリン食後打ちの対応 食事準備介助片付け
22:00～22:30	水分補給・内服介助
【その他】	
看護	毎週水曜日(午前中) 健康管理、内服管理、全身清拭
随時対応	排便時はコールにて対応

**インスリン注射1日3回、独居、利用開始から1年程度で状態悪化し
ほぼ全介助になったが、自宅での生活を続けることができた。
今回居住アパートの解体があり、施設入所という結果になった。**

| 今後の課題と対応

2. 受診介助や施設見学など、常にケアマネジャーさんが動かされており、負担が大きかったと感じる。

→生活保護受給の方であっても、インフォーマルサービスなどの活用などで連携して支えることができなかったか？考えさせられた。

定期巡回サービスの利用方法について

今回ご紹介した事例に限らず、様々な理由で「在宅での生活は困難だ」と評価された方々を、定期巡回サービスで支えているというケースが多数存在しています。

利用者様によって、介護度・医療依存度・家族構成等、多種多様なケースがあるかと存じますが、ご本人やご家族が「住み慣れた家で最期まで」という願いをお持ちであるならば、是非一度ご相談ください。

介護・医療連携について

在宅での生活を支える中で、医療ケアのニーズは増えていきます。看護師がいない我々に必要な事は介護士として必要な医療などの知識を学び、看護師との連携がよりスムーズに行うことであると考えます。ぜひ、御事業所様で研修する際などに合同で行うことなどができ幸いです。

また、定期巡回ステーションずっといえでは、今後順次「認定特定行為業務従事者」の認定を受ける予定としています。



定期巡回ステーションずっといえの現状
利用者数と利用傾向の分析
現状の課題と対応策

株式会社zuttie

定期巡回ステーションずっといえ

利用状況（R7年10月度実績）

利用者数とその内訳

利用者数		35名
平均要介護度		3.1
介護度 内訳	要介護1	3名
	要介護2	10名
	要介護3	7名
	要介護4	10名
	要介護5	5名
世帯状況	家族同居	14名
	独居	11名
	老老	10名
住宅状況	一般住宅	35名
	集合住宅（施設系）	0名

参考：従業員数

介護職員	常勤	9名
	非常勤	6名
保有資格	介護福祉士	15名
男女比	男性	4名
	女性	11名

利用事例

01 在宅復帰支援

入院前後でADLが急激に低下しているケース。
在宅生活の基盤を整える。

02 長期休暇での利用

盆正月など、日頃利用している事業所が休暇に入る間、
ピンチヒッターとして定期巡回サービスを一時的に利用。

03 集合住宅への訪問

住宅サービス（安否確認・見守り等）と併用することで、
ADLに関わらず安定した生活を実現する。

04 適切な服薬

薬の飲み間違い・飲み忘れが日常生活に支障をきたす場合、
介護士による定期訪問で解消。

05 看取り

介護・看護両軸での支援に加え、定期巡回サービス特有の
随時対応・随時訪問により、在宅での看取りを支援。

現状の課題

01 医療ニーズへの対応

吸引・胃ろうを必要とされるケース

02 コアタイムの解消

デイサービスや透析を利用されている方が多い影響で、送り出し・迎え入れの時間帯に、サービスが密集。

03 地域との連携強化

特定の事業者とは密な連携が取れているものの、関係値の低い分野・エリアが存在している。

各課題への対応策

01 医療ニーズへの対応

介護職員による喀痰吸引の資格取得。
順次取得予定。

02 コアタイムの解消

パート社員の新規雇用に加え、
チーム型定期巡回の連携先拡大（及び連携強化）。

03 地域との連携強化

他職種への事業説明及び、連携方法の協議を進め、
事業所としての守備範囲を広げていく。

ご清聴ありがとうございました

